

堺市長選挙「振り返りレポート」

写真のレポートが自宅に届いた。インターネットで発行されたことを知っていたが、私のところに送られてくるとは思っていなかった。なんだか嬉しくなった。

「10連休」最後、5月6日に堺市産業振興センターで開催された「市政を刷新し清潔な堺市政を取り戻す 市民1000人委員会」に参加した。堺市長選挙のことが気になり、堺市民の活動・発言などに直接触れたかったからだ。5月9日にレポートしたように、会場が参加者であふれ、熱気に包まれた集いであった。

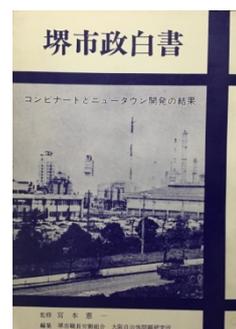
選挙後の6月23日「市政を刷新し堺市政を取り戻す 市民1000人委員会振り返りのつどい」が行われ、本冊子はその全記録である。野村友昭さんの「候補者として市長選をどう闘ったのか？」などの報告、活動交流、グループ討議、まとめが収録されている。

こうして選挙の2週間後に振り返りのつどいを行い、それをレポートとして刊行する活動に、心からエールを送りたい。きっと今後の堺市政「監視」の力となるであろう。資料の一部を抜粋して紹介したい。

選挙結果は1万4千票の僅差まで追い詰めた、終盤の猛追。論戦の力が猛追を生み出した：維新は「都構想」論議を隠し、抽象的な「府市一体の成長」を叫び、あとは政治とカネなどで様々なフェイクをばらまき、こちら側への口汚い攻撃に終始したのに対して、野村氏・「チーム堺」側は地道で細やかな市民サービスの政策を、これまでの成果と今後の見通しを含めて提起し、そのためにも政令市維持が必要だと愚直に訴え続けた。チーム堺による横一線の連携：選挙態勢でも、野村陣営「チーム堺」は「住みよい堺市をつくる会」や「1000人委員会」など市民グループの創意を包み込み、連携する態勢を作り、気持ちの良い連携が作られた。

写真下は1976年刊行の『堺市政白書 コンビナートとニュータウン開発の結果』である。私も第9章「開発優先の堺市財政」を共同で執筆している。当時、大阪市立大の大学院博士課程1年であった。初めての共著であり、忘れられない苦い思い出もある。出版記念のつどいで、会場から質問があり、キンチョーのあまり答えられなかった。まだ若かった。

第1章「『自治都市』の歴史的再生を」のさいごに、本書を監修した宮本憲一先生は次のように書かれている。「堺市の歴史的再生は、市民の自治意識の昂揚にかかっています。おそらく、新しい市政の最大の行政は『社会教育』にあり、市民運動をおこし、堺市民としての自覚と町づくりへの参加をすすめるために、議会も行政当局も全力をかけたむけねばならないでしょう。」



(2019年7月20日)